

名古屋めしレビュー “mackiart”

こんにちは、まきあーとです。

今回痛快旅路お休みします。その代わりと言っては何ですが、先日の出張collective in名古屋の番外編verを書こうかなと。イベントの詳しい内容は他のメンバーの記事をご覧ください！その代わり私はイベント前にメンバーを連れて行った名古屋めしについて書き綴ろうと思います。

「味仙」(みせん)という台湾料理屋さんをご存知ですか？このお店をおさえているならば、かなりの名古屋freakだと思えます。台湾ラーメンと言えばピンと来る方もいらっしゃるかな？「味仙」は台湾ラーメン発祥のお店と言われています。(ウイキペディアより引用)どうして名古屋で台湾料理なのかはイマイチ不明なのですが、ついつい美味しくても月1必ず足を運んでしまう程地元民にも人気なんです。店内は昔ながらの古い中華料理屋さんのように真っ赤なテーブル、テーブルの上には大量に箸が刺さった箸立て、プラスチック皿、調味料、そして壁にはキリンビールのキャンペーンガールポスターといった昭和な香りのする感じです。大衆食堂なので老若男女で賑わっています。その中でも特に私が好きなのは、店員さんがほぼ中国人というところ。お店に入ると名古屋じゃなくなった感じがして、その外国みたいな雰囲気がとても気に入っています。

メニューももちろん豊富で、辛い！クサイ！のオンパレード！その中からいくつかピックアップしますね。まずは名古屋めし定番の手羽先。味付けはピリ辛だし、注文したらもの数秒で出てくるので、「とりあえず」にピツッリなんです。他の料理を待つ間のビールのお共に…。個人的には最初の一杯は生ビール派なんです。これを食べる時は瓶ビール！理由は特に無いですが、「昔から決まってる」んです(笑) 他には味仙定番メニュー「青菜炒め」ニンニクがこれでもか！という位ゴロゴロ入っています。あと、これもタイミングが良ければファーストフードばりに早く出てきます。ただ熱いうちに食べましょう！ここポイントです。マニアックなメニューだと「水餃子」と「スーラータン」。水餃子は皮から手作りなのでモチモチな上、口に入れたときのどごし半端ないです。ここでは焼き餃子より水餃子をお勧めします。あとスーラータンは最近でこそ有名になったスープですが、昔はここでしか食べられないくらいレアでした。酸っぱいスープなんです。胡椒がこれでもか！というくらい入っているので、辛い。酸っぱい辛いから汗がもうじゃんじゃん出てきます。特に二日酔いの日なんかはこのスープは効きますよ。究極のデトックス！家でもこの味を再現しようとして日々奮闘していますが、まだまだ道のりは長そうです…。奥が深いスーラータン。ちなみにスーラータン麺というラーメンもお勧めです。これは裏メニューですけどね。

今紹介したメニューはほんの一部でもっともって沢山あるんですが、味仙に行く機会がありましたら、全部とはいませんが今回紹介をしたいずれかを是非お試しください！メンバーにこれらを食べてもらったところ、好評でしたので、間違いのないことは保証します。大阪にも作ってほしいと太鼓判を頂いた程なんですからね。

あーこれを書きながら思い出していたら無償に食べたくなってきちゃいました。これは近日中に行かなければ！新メニューにチャレンジしてみようかな…。でもやっぱり定番を攻めるんだらうな…。そんなことを考えながら今日はこの辺までとさせていただきます。あーお腹が空いたなあ…。

collectiveのお盆のススメ “tawaki”

ご存知の通り、お盆は亡くなられた方をお迎えて数日間を共に過ごす期間です。今回は「collectiveのお盆のススメ」ということで、最近亡くなったフォンス・ミゼル(享年68歳)のことを紹介したいと思います。フォンス・ミゼルは1970年代初頭に弟ラリー・ミゼルとプロダクションチーム「sky high productions」をカリフォルニアに設立。その名が示す通りsky high productionsは1970年代のジャズシーンに爽やかな風を吹き込みました。

かの有名なジャズレーベル「blue note」に在籍していたトランペット奏者ドナルド・バードやフルート奏者ポピ・ハンフリーをはじめ、一時期はスピリチュアルな作風が際立っていたサクソ奏者のゲイリー・パート、鍵盤奏者ジョニー・ハモンドなどがsky high production製作のアルバムをリリースしています。また、collectiveの常連さんにお馴染みのディスコミュット、ア・テイスト・オブ・ハニーの代表曲boogie woogie woogieも実はsky high productions製作です。

sky high productionsが製作したアルバムは、プロデューサーの色が濃厚に出る傾向があります。悪く言えば「金太郎飴」なのですが、極上味の金太郎飴といえ、その良さがわかっていただけるかと思えます。「うまいもはうまい！」ということです。そこでオススメの音源10枚を紹介しておきます。sky high productionsの音源は部屋の温度を数度下げる効果がありますので、夏の清涼剤として活躍すること請け合いです。是非お試しください。もちろん、本日のcollectiveでもフォンスの供養のためにプレイさせていただきます。今宵宴を楽しみましょう。

Gary Bartz / The Shadow Do... / 1975 Prestige
Gary Bartz / Music Is My Sanctuary / 1977 Fantasy
Donald Byrd / Black Byrd / 1972 Blue Note
Donald Byrd / Street Lady / 1973 Blue Note
Donald Byrd / Places & Spaces / 1975 Blue Note
Johnny Hammond / Gambler's Life / 1974 Salvation
Johnny Hammond / Gears / 1975 Fantasy
Bobbi Humphrey / Blacks & Blues / 1973 Blue Note
Bobbi Humphrey / Satin Doll / 1974 Blue Note

information

おかげさまでcollectiveは7周年を迎えました。いつの間にかやらメンバーもみんな30代に突入です。音楽に対する愛情を変わらず持ちづけることができていることに感謝です。そして何よりcollectiveに遊びに来て下さる皆さまに感謝です。

次回は2011年の晩秋を予定しています。詳細はブログでご確認下さい。

<http://blog-collective.blogspot.com/>

正真正銘のクラシックス “naoki adachi”

皆さん、アニョハセヨ。

本日、collectiveにて少しばかりDJをさせていただきます安達です。

まず始めに、このような素敵なパーティーにお招き下さったcollectiveの皆様
様に感謝申し上げたいと思います。本当に有難うございます。

さて、今回collectiveに参加させて頂きましてにあたってイナギキ氏より「1000字程度」でpress collectiveに掲載する文面をとの依頼を受けましたので、作文が大の苦手な私ですが、ちょっと頑張ってみます。日頃から特別な趣味を持たない私ですので、皆さんにおもしろい情報や話題・ネタをご披露することはできませんが、お許し下さい。

近年、春から夏、秋にかけて山登りに出掛けることが多くなってきました。仕事のストレスのせい、大自然の中の静けさや頂上からの素晴らしい眺望にすごく癒されます。意識的に計画するものは年に1、2回程度で、他は時間を見つけては友人・同僚・先輩なんかを誘って日帰り可能な近場に出掛けます。昨年は「八ヶ岳」「大山」「六甲山」、今年は「富士山」といった具合です。

普段からこれといって運動をしない私にとって山登りは決して楽なものではなく、肉体的にはかなりハードになることも多いのですが、そんな時、いつも私を救ってくれる素敵な飲み物があります。それは皆さんよくご存知の「ポカリ」です。

想像してみてください。照り付ける太陽のきつい日差しで全身は下着まで汗でダラダラ、披露で足はパンパン、肩には重いバックパック、喉はカラカラ、体のエネルギーが切れそうなあの場面を、、、

そんな時に飲む「ポカリ」が本当に最高なんです。「アクエリアス」でもなく「ゲータレード」でもなく「ポカリ」。断固「ポカリ」。すうすうと口に入って喉を潤し、全身に水分が染み渡っていくあの感覚、心まで満たしてくれそうです。エクセレント。

「A DRINK SAVED MY CLIMB」

正真正銘のクラシックス。

1980年、大塚製薬から生まれた「POCARI SWEAT」。私とほぼ同世代。決して主張しすぎない甘みと塩味の絶妙なバランス(ウィキペディアによると赤穂の「塩見饅頭」をヒントにしたらしい)。ブルーとホワイトのシンプルなパッケージ。今も昔も変わりません。

大好きです。
collectiveも。



極私的ハウス嘸 “itaru wakui”

「名古屋ミッドナイトの巻」

毎年のことながら夏は暑いので、加齢とともにますます暑さがこたえるような気がしております。さて、毎度おなじみのこの駄文、今回はcollective extraについて。

去る7月2日のこと、collective crewであるmackiartの地元名古屋でextraな一夜が催されたことはコアなcollectiveファンならずともお耳に届いているだろうと思います。会場は、mackiartのド渋DJを支える、名古屋一のレコード屋との呼び声高い名店「out record」。このお店、店の端にDJブースを設置し、ちょっとしたダンススペースを挟んだもう一方の端にはパーカウターを備え、週末ごとにパーティーを開催するという、なんとも趣味度の高い素晴らしくステキなお店で、レコードの品揃えも充実のハナマル5つ星なレコ屋さんでした。

ふだんはお屋に開催のcollectiveですが、今回の名古屋では、out recordがレコード屋としてのオモテの顔が暖簾となったあと、夜中23時から翌朝にかけてのパーティーです。

mackiartイチオシのニンニクたっぷりスタミナ台湾料理でパワーチャージを済ませると、旅気分とあわせてメンバーのテンション高まるなか、いよいよextraな時間が始まりました。夜中ということで、それぞれふだんのcollectiveとはひと味違った夜仕様な選曲で楽しませてくれます。酒も進み、心地よい音に身体をあずけつつふらふら、ゆるゆらと音楽を浴びるのは、これはこれで屋とは違う心地よさがあります。

ところで、途中一度コンビニまで深夜の大名古屋繁華街を歩いたときのことです。ちょっと歩いた先になにやら一群の人だかりが見え、さすがに大名古屋は夜の盛り上がりもすごいもんだと人だかりの方に向かっていたので、いざそのなかに突入してみると、まさかまさかのブロックパーティーと化した一時的自律ゾーン(T.A.Z)が現出しているではありませんか。交差点のまんなかには高級車が居座り、そのまわりでは目の前のコンビニで買った酒をあおりながら、おしゃべりに花を咲かせ、ダンスに興じる男女の群れ。イリーガルな匂いすら漂わずこの集まりをブロックパーティーといわずしてなんと呼ぶのでしょうか。

集まっているのは外国人と思いき人が大半で、わりと目つきが鋭く、ガタイのよいのも多いのですが、察するにおそらく彼ら彼女らは大名古屋を支えるトヨタをはじめとした製造業の生産現場を守る労働者だろうなという印象です。ウィークデイを無事にやりすぎ、週末ごとにこうやって大発散しているのかと盛り上がり横目にコンビニでの用を済ませ、その場には加わることなくそそくさと退散したのですが、まるで異空間にさまよい込んだかのような大名古屋の印象深い深夜の出来事でした。

collective extraも路上パーティーに負けじと、感じの良いお店の雰囲気にも煽られたメンバーのミッドナイトな選曲によって盛り上がりみせながら夜は更けていき、やがて小鳥さえずる爽やかな朝を迎えたのであります。

というわけで、ひさびさの深夜開催を堪能し、また機会があれば出張collectiveを催したいものだと思つたメンバー一同でした。では、まだまだ残暑暑い毎日ですが、今宵はひとときの清涼を感じて楽しんでください。

名古屋extraライブレポート “kenko matsui”

いつもcollectiveをサポートいただきましてありがとうございます。この夏でcollectiveは7周年となりました。こうして今回のcollectiveが開催できるのも、毎度みなさんが足を運んでくださっているおかげです。どうぞこれからもよろしくお願い致します。

さて1ヶ月ほど前になりますが、collective初の遠征に行つて参りました。場所は私も生まれ育った土地である名古屋。collectiveのレギュラーDJ、mackiartが住んでいるということもあり、その縁で名古屋の栄にあるoutrecordさんというすばらしいレコード店の週末のパーティーをcollectiveで参加させて頂けることになりました。collectiveのメンバーは、大阪、奈良、京都、名古屋、東京と住んでいる場所が離ればなれなので、通常collective当日以外に全員が集まることがありません。そんなこともあって、ちょうどみんなの中間地点として名古屋でパーティーというのは小旅行気分でもあり良いアイデアでした。全体的なお話は他の書き手がレポートしてくれると思いますので、ここでは(興味ある方と興味ない方にばっかり分かれる話題で恐縮ですが)この日のライブのお話を書こうと思います。

この日はcollectiveとしては特別編なので、トライアルでライブのやり方を少し変えてみました。今回試したのは、ライブでやるトラックをいくつかのパートで束ねて4トラックくらいに分けてオーディオデータに出力しておき、それをAbleton Liveで同時にプレイしながら、パート別にMIDIコントローラでボリューム、イコライジング、エフェクトなどをオペレートしていく手法です。また即興的にオーディオデータの任意の一部分をループ再生して重ねるなどの「遊び」部分も入れることにしました。が...残念ながら全体としては今回はうまくいきませんでした...とほほ。

この手法の問題はライブ中の操作が煩雑になることで、DJブースの暗く狭い中での作業なのでDJくらいシンプルな作業でないとなかなか難しいですね。ライブ中は必死なので、やることが多くなってくと忘れて飛ばしてしまったりしました。あと前から薄々感じていたのですが、自分の持っているMIDIコントローラはあまり操作性・視認性がよくないのでアナログミキサーで制御する方式に戻そうかとも思っています。

さらにライブ中盤でMIDIコントローラの設定を変更したのですが(このあたりの簡便さはAbleton Liveのいいところですが)、このときにどこかで設定を誤ったらしく、左上のつまみをまわすと曲が先頭に戻ってしまう(!!)という動作をするようになってしまい、そんな設定に変わっていることにはしばらく気付かず、そのつまみを触る度に同じ曲が先頭に戻って繰り返すというなんともおもしろいライブになってしまいました(泣)。4回目くらいの繰り返し中に動作の異常に気付いてくる〜くパニクリ、あわてて次の曲に切り替えました。あまり皆このことに気付いていなかったようですが無駄に長い〜位は思ったかもしれませんが...。その後はなんとか持ち直して終了しましたが、もっとライブ中の操作を減らしてシンプルにしないとうまくいかないかと反省しました。

そんな前回の反省を糧に今回もライブのやり方を変えて臨みますのでどうぞお楽しみに!